

かうくゝの事なんあるといへば、只はやからん川に、たちながらよこさまになげ入見んに、かへりてながれむかたをすゑとゑるしてつかはせとをしふまいりて我ゑりがほにして、心み侍らんとて、人々ぐしてなげいれたるに、さきにして行かたにゑるしをつけてつかはしたれば、まことになりけり、又二尺ばかりなるくちなはのおなじやうなるを、是はいづれか男女とて奉れり、又さらに人えゑらず、れいの中將ゆきてとへば、二つをならべて、尾のかたにほそきすはえをさしよせんに、尾はたらかさんをめとしれといひければ、やがてそれを内裏のうちにてさしければ、まことに一つはうごかさず、一つはうごかしけるに、又ゑるしつけてつかはしけり、程久しうて、七わだにわだかまりたる玉の中とをりて左右に口あきたるが、ちいさきを奉りて、これにをとをしてたまはらん、此國にみなゑ侍る事なりとて奉りたるに、いみじからん物の上手ふようならん、そこらの上達部よりはじめて、ありとある人ゑらずといふに、又いきてかくなんといへば、おほきなるありを二つとらへて、こしにほそき糸をつけ、又それに今すこしふときをつけて、あなたの口にみつをぬりて見よといひければ、さ申てありをいれたりけるに、みつのかをかぎて、まことにいととうあなのあなたのくちに出にけり、さて其糸のつらぬかれたるをつかはしたりける、後になん猶日本はかしこかりけりとて、のちくゝはさる事もせざりけり、○中略其人の神になりたるにやあらん、

〔江談抄詩五〕并并字和名事

被命云、延喜御時、渤海國使二人來朝、其牒狀爾此兩字各爲使二人姓名、紀家見之、雖未知文字、呼云、并木ノツフリ丸并石ノマフリ丸參レト喚、各應會參云々、異國作字也、以當時會釋讀之、可謂神妙者也、異國人聞而感之云々、

〔今昔物語三十一〕藏人式部丞貞高於殿上、俄死語第二十九